

レクリエーションの企画と運営 に関する実践研究

—あそこどもジャンボリーから—

福岡教育大学 秋 吉 嘉 範

はじめに

“遊びを知らない子どもたち”と呼ばれる現代っこを思いきり大自然の中で遊ばせようと、企画、実践したのが“あそこどもジャンボリー”である。

さて、今日ほど子どもの遊びが、社会的な話題になっていることは、過去に例をみないといつてよい。とくに、本年は国際児童年として世界的に子どもの成長発達に大人が助力している。

ところで、子どもの遊びの教育的意義はいまさら論ずるまでもない、子どもが遊びを通して体力や精神力、社会性を身につけ、全人的に成長することは教育の基本であり、理想である。しかしながら、子どもにとって、“よく学びよく遊べ”は単なる理想であり、現実には“よく学べ”が優先している。遊びは余り、ひまの感覚のまま、“よく学ぶ”ための補助的役割しかはたしていない。

そこで、子どもたちに、“よく学びよく遊ぶ”生活習慣を身につけさせる。そのためには、まずよく遊ぶ、思い切り遊ぶ、上手に遊ぶ、仲間と遊ぶ、自然の中で遊ぶことを身につけさせようと、意図的に計画したのが、“あそこどもジャンボリー”である。

あそこどもジャンボリーは、昭和53年夏にはじめて実施し、同年冬にウィンタージャンボリー、昭和54年夏と合計3回実施したのである。

そこで各回実施した、内容や方法、その結果をまとめたものが以下の実践研究報告である。

1 昭和53年夏あそこどもジャンボリー

1. 時期

昭和53年7月22日(土)から8月8日(火)までを5回に分け、1回を3泊4日で実施した。

1回目 7月22(出)～7月25日(火)

2回目 7月25(火)～7月28日(金)

3回目 7月28(金)～7月31日(月)

4回目 8月 2(火)～8月 5日(木)

5回目 8月 5(出) 8月 8日(火)

2 対象

小学校4年、5年、6年の男女、なお3年が数名含まれている。1回から5回まで合計417名が参加した。参加者は福岡市、北九州市を中心に、鹿児島、長崎(対島)、熊本、大分、佐賀、久留米、大牟田、宮崎、山口、広島などと広範囲にまたがり、最も遠いのは千葉から参加した。

3 場所

熊本県阿蘇郡阿蘇町赤水、阿蘇白雲山荘を中心に、阿蘇外輪山(二重峠)や黒川河畔などである。

4 プログラム(日程)

プログラムは表1のとおりである。プログラム作成にあたっては、日本交通公社福岡エースセンター担当者とは数回の会合を持ち、現地下検分打合せ2回、こどもの遊びの好き嫌い調査などの結果を参考にして作成したものである。

(表1)

表1 日程表(プログラム) 昭和53年夏のこどもジャンボリー
和

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1 日目							到 着	開 校 式	親 睦 の つ ど い		入 浴	夕 食		星 空 の 歌 お う と で			ー お や す み ー
2 日目	ー お は よ う ー	朝 の つ ど い ー	朝 食	ワ イ ド ハ イ キ ン グ	昼 食	ス ケ ッ チ 大 会					夕 食	入 浴	き も だ め し			ー お や す み ー	
3 日目	ー お は よ う ー	朝 の つ ど い ー	朝 食	な ん で も つ く ろ う (野 外 工 作)	昼 食	水 泳 大 会				入 浴	夕 食		カ ン プ フ ァ ィ ヤ ー			ー お や す み ー	
4 日目	ー お は よ う ー	朝 の つ ど い ー	朝 食	む か し の あ そ び を お ぼ え よ う (軽 ス ポ ー ツ)	昼 食	別 れ の つ ど い											

5 評 価

- (1) 自由記述による感想文
- (2) 質問紙法による評価
- (3) 指導者(スタッフ)全員討議による評価

6 結果と考察

指導者(指導員、看護婦など)延22名の事前打合せ、オリエンテーションを2回実施、あそこどもジャンボリーの目的や内容、指導方法、用具準備などの打合せと、指導方法の学習をかさねた。なお、指導者は実施前日に現地集合し、仕事の打合せと準備にあたった。

あそこどもジャンボリーの目標をつぎの3つに決めた。(1)、きびしく、(2)、なかよく、(3)、たのしく、である。まず「きびしく」は、共同生活を送るための規則を守ること、あそびのルールを守ることなどである。こどもにとって遊びが、社会的、道徳的訓練の場であることは、

よく知られたことである。こどもは遊びを通して、他人とどう協力すべきかを学ぶのである。また、集団的活動に参加することによって、集団の基準に従って行動する必然性を体験するのである。このような集団的活動は、現代の子どもに欠けているといわれる協力、奉仕、自己統制、自己出張などの社会的態度を身につけさせようとしたのである。とくに現代っくに欠けている「きびしさ」を学ばせようとしたのである。

いくつかの具体例をあげよう、①テレビ、ラジオの視聴禁止、②インベーダーゲームなど遊戯機器の利用禁止、③自宅からの電話を遠慮願った、④こずかいは300円を残し、あとは全部あずかり最終日にかえした、⑤生活上の規則はきびしく守らせた食事は黙想に始まり、「いただきます」、「ごちこそさま」を合掌していわせた。また、食事中は正座、始き嫌いの食品もできるだけ食べるように指導した。以上のこ

とは、開校式の諸注意のなかで、こどもにわかりやすく説明し、理解を求めて実行した。

つぎに、「なかよく」である。お互いはじめての人ばかりという個人参加であるため、お互いの人間関係をよくすることに重点をおいた。また指導者とこどもたちのコミュニケーション十分にはかるようにして、指導者となかよくするようにした。

一方、グループの編成は、地域や学年をごちゃまぜにして、知らない者同士が、なかのよい友達になるようにした。また、6年の年長者を中心に“ガキ大将”の系例ができるようにした。このことは、同学年のよく知った仲としか遊ばない今のこども達が既製のタテ社会で、助け合いなかよくすることをねらったものである。この方針に対して、なかよし同士でやってきたのだから、同室、同じ班にして欲しいという、こどもや親の希望があったが、この方針を説明し、理解を得た。

3つめの「たのしく」は、思いきり遊ぼうということに視点を置いた。たのしいとは、満足を愉快で明るい気分になることである。//しかし、たのしく感じるのは個人差がある。みんなが楽しくする活動が理想であって現実には、不可能に近い。そこで、活動そのものの楽しさは、もちろんであるが、活動後の満足度、すなわち、結果にポイントをおき「たのしかった」という状況をつくるように、指導上留意した。また、たのしさは、享乐的な利他的な楽しさだけでなく、苦しさをのりこえた楽しさも重要であると考えた。くるしさ、きびしさをのりこえた楽しさを探索した。とくに、遊びではきびしいルールがあってはじめて楽しいことを学ばせたのである。

1日目

北九州および福岡から貸切バスでこども達が

到着するのは12時頃である。現地集合のこども達と合流して、大広間に入れ昼食をとらせる。とくに、はじめての旅のこどももいるので、指導者にできるだけ親切に対応させた。親切のなかには、やさしさ、わかりやすさ、を含めて行動させた。指導者は全部共通のユニホームを着用して、こども達に一目でわかるようにした。

食事後、班分け、名札くばり、荷物の整理をして、班ごとに宿泊部屋へ案内した。一つの班は7～8名とし、各班ごとに担当の指導者をつけた。またこどもたちには互選させて、班長、福班長を決めさせた。班長、福班長は6年、5年の年長者から出る場合が多かった。班長は班の世話役として、班員の行動や健康把握など指導者の連絡役として責任をもたせた。

開校式(13:00～13:30)

1. はじめのことは
2. 校長先生のあいさつ
3. 阿蘇白雲山荘代表歓迎のことは
4. 日本交通公社代表歓迎のことは
5. こども代表約束のことは
6. 指導者(スタッフ)紹介
7. 諸注意
8. 日程説明
9. おわりのことは

開校式は厳粛ななかにも、楽しい希望をもたせるセレモニーにした。なお、指導者紹介のあとこども全員に、指導者の名まえを覚えるゲームをして、指導者全員の顔となまえを早く覚えてもらう努力をした。

- ・ 親睦のつどい(13:30～15:00)
- ・ うた(1)森の熊さん(2)山賊の唄(3)七つの子
- ・ ゲーム (1)指キャッチ、(2)せっしゃの刀はサビ刀、(3)勝抜き集団ジャンケン、(4)両手ジャンケン
- (5)負けたらまわれ

(6) 団結おどり、(7) あっちむいて

ホイ

ジャンボリーの活動プログラム最初のため、子ども達の気持ちを盛りあげるのに苦労した。

各地方から集まっているなかで、お互いの名まえと顔を覚えさせるため、なるべく単純で楽しめるゲームを選んだ。結果としては、こちらの意図通り、子ども達は、すぐにうちとけてしまった。

このプログラムは親睦が中心であるから、なかよく楽しく短時間に実施したのは成功であった。

・入浴 (16:00~)

班ごとに入浴させ、お互いの背中を流させたりして、スキンシップをはかった。指導者も同時に入浴させたのは、子どもと早く仲よくなるためにもよかった。

・夕食 (17:30~18:00)

狩場鍋(牛肉・鶏肉・野菜・餅・うどん等) 班のみんなが仲よくなるため、鍋のものを注文して、おなじ釜(鍋)の食事をとるようにした。

星空のもとで歌おう (19:00~20:00)

・うた(1)森の熊さん、(2)山賊の歌、(3)青春時代、(4)アルプス一万尺、(5)ハメハメハ大王(おどり)(6)ピンクレディー特集(うたとおどり)

・バンド演奏(西南大学ケーブホーン)

・フォークダンス

西南大学バンドの協力で、2倍も3倍も楽しくなったようだ。テレビやラジオではいつも聞いているメロディーでも、生の演奏を聞くことは初めての子どもが多く、新鮮さもあって、大いに楽しみ喜んだ。また、日頃に経験しない屋外で実施したため、大きな声を出さないと声が聞こえないということがわかった。星空のもとであるから、星座の勉強をして、子ども達に話

してあげたらよかったと反省した。初日の夜であるから、あまり疲れないように配慮した。

・就寝 (21:30)

日頃、早目に寝ていない子どもが多かったこと、はじめての旅行で興奮して、なかなか寝つけない子が多かった。全員が寝いきをかきはじめたのは23:00頃であった。

指導者のなかから、深夜当番を決め、部屋の巡回と健康管理に留意した。

2日目

・起床 (6:30)

・朝のつどい (7:00~7:30)

1. あいさつ
2. 体操(ラジオ体操)
3. 校長先生のこたば
4. 日程説明
5. ゲーム
6. 団結おどり
7. おわり

・散歩(グループごと)

・朝食 (8:00)

ごはん、みそ汁、海苔、卵

・ワイドハイキング (9:20)

ゲーム(1)草原ワイドゲーム(2)すもう

(3)チャンバラごっこ(4)戦争ごっこ

・探検(班で行動:岩穴や牛などをみてまわる。)

・昼食(弁当)

白雲山荘から阿蘇外輪山の二重峠まで、片道約5Kmを、徒歩でハイキングした。二重峠は眺めがよくて、阿蘇中岳の墳煙がよく見えた。だらだらと続く登り坂を、子ども達は喘ぎながら登った。

苦しい汗のなかで登った満足感は、格別のようであった。

屋外に出るため、車やその他、交通安全に注

意し、こども達の管理に苦勞した。一度、雨のそめプログラムを変更したが、翌日に実施したため問題はなかった。こども達は、プログラムを十分知って参加しているため、プログラムの変更はできるだけさけた。こどもの期待を裏切らないためにもである。

・スケッチ大会（13：00～14：30）

白雲山荘のまわりの景色を2時間程度で描かせたその後、全員の絵をキャンパスにあつめて全員で批評会を開いた。また、外来の大人5人に審査員になっていただき、「好きな絵」を5点ずつ選んで、表彰した。表彰は「素敵な絵で賞」「上手に描けましたで賞」「努力賞」「うまいで賞」などに分けて、言葉による表彰と、審査員がほめて、頭をなでてやる“ほうび”をあげた。

結果的にはみんなの絵をほめてやり、下手なこどもも上手に描けるという希望を持たせた。終了後、食事をする大広間に全員の絵をはった。またその絵は最終日に返して、自宅にみやげとして持ち帰らせた。

・入浴（16：00）

・夕食（17：30）

鍋もの（ミートボール、野菜等）茶わん蒸し

・きもだめし大会（19：00～21：00）

男女2組に分け、怪談話をした。途中、部屋の中にかくれていた“おばけ”を出したりして、恐怖のパニック状態をつくりあげた。

その後、男女、2コースに分けて、きもだめしのコースへ行かせた。人数が多くて、時間的に、予定どおりに終わらないことがあった。また、2人1組で歩かせたのだが、出発する時間の間隔が限られたため、2～3組がいっしょになったりした。“怖いものみたさということ”泣き出すこどもも多かった。お化けや“ヒトダマ”

を見てこんな恐いことははじめてというこどもが多かった。しかし、こども達にとっては一番思い出になる活動ではなかっただろうか、と思う。きもだめしの終了後のこどもの晴れぱれした顔は忘れられない。恐怖感、緊張感から解放されて面白さを満喫した。

レクリエーションの極意とでもいえるのではないだろうか。なかには、恐くて眠れぬというこどもがいたので、指導者がめんどうを見た例がある。

・就寝（21：30）

3日目

・起床（6：30）

・朝のつどい（7：00）

・朝食（8：00）

・ご飯・みそ汁・海苔・卵

・野外工作（9：20～11：20）なんでも作ろう。

・インディアンの家づくり、古代人の家づくり。

場所は、白雲山荘の近くの広場で実施した。

家を解体した廃材を使って、インディアンの家をみんなでつくった。材料が不足した分は、小竹の笹を切って使用した。なかなか思うようなものができないので、班員が知恵を出し合って、チームワークよろしくつくりあげた。こども自身が自らの手で大きな建物をつくることのないのが現実である。縄や針金などを作って作りあげて行くこども達は喜々としていた。完成した時は、みんなでパンザイしていた。汗と泥にまみれた創造の喜び、完成の喜びは、レクリエーションとして重要だと思う。

・昼食（12：00）

カレーライス

・昼寝（そろそろ疲れる頃になるので、昼寝は大切な時間となる。）

- ・水泳大会（14：00～15：30）
- ・水遊び（1）水中ジャンケン（2）鯉の滝のぼり
- （3）水中逆立ち（4）水中鬼ごっこ
- （5）騎馬戦（6）ふやし鬼（7）猫とねずみ

・自由遊泳

- ・リレー（班対抗）

水が21度程度で冷たかったので、体操や水あそびなどで、冷たさを感じさせないようにした。こどもたちは楽しんでゲームなどをしていた。また冷たい水中で、長く泳がせないように配慮した。

しかしながら、水泳大会は、こども達が当初から楽しみにしていた種目だから、期待度は大きかった。ここでも裸同士のスキンシップを、指導者とこども、またはこども同士でかわした。最後のリレーは、苦しいながらも、よく健闘した。泳げないこどもは、歩いたり、腕こぎで泳がせた。

- ・入浴（16：00）

- ・夕食（17：30）

重箱弁当（とうもろこし、ゼリー、鶏肉など）

- ・キャンプファイヤー（19：30～21：00）

キャンプファイヤーは、事前の準備が大切であり、またたいへんでもある。とくに、各班の演じもの（うたやスタンツ・ゲームなど）は、事前に企画し準備し、練習しておかなくては、うまくいかない。各班とも班長をリーダーとして、話し合い、知恵を出し合って、計画、練習をしていた。練習は他の班に見られぬよう、本番まで知られないように、こっそり場所を変えて実施していた。班によっては、何をやってよいかわからない場合があったので、指導者と相談させ、ヒントをもらっていたようである。こども達が短時間に考えて実践するのだから、例え幼稚なものでも、ほめたたえてやるのが大切である。

キャンプファイヤーが実際はじまるのは、すこし暗くなってからであるから、20時近くに

なった。それまで、うたやゲームを楽しんだりした。

キャンプファイヤー

プロローグ うたやゲームなどの事前指導第一部 火を迎えるつどい

- (1) 入場
- (2) 夜のうた トーチ入場（女神が持って）
- (3) 営火長のことば。阿蘇のはなし
- (4) 分火 誓いのことば（各班代表）
- (5) 営火の祈り
- (6) 点火 燃えるよ燃えろ合唱
- (7) 詩のろう読

第二部 楽しいつどい（交換と親睦）

- (8) 全員でうたやゲーム
- (9) 各班の演じもの
- (10) 全員でのうたやゲーム、おどり

第三部 火を送るつどい

- (11) 静かなうた
- (12) 営火長のことば
- (13) こども代表の感想
- (14) 静かなうた・採火
- (15) 送火 つどいをとじることば

こども達の心に強く残ったものに、キャンプファイヤーである。

それだけに、第1部と第3部のセレモニーは厳粛に、第2部は楽しく、愉快地に、すなわち、静と動のたぐみな演出がなくては、盛りあがらない。とくに、こどもの場合、長時間（1時間30分以上）にわたると、あきがきてしまう。そのためこどもが、さわりだり、だらだらしたりすると、指導者が注意したり、しかったりする。しかり方によっては、こども達がしらけてしまうことがある。そこで、第二部の終りのほう、すなわち、なかだるみがくる時点で、はなやかな演じものを準備した。それは指導者5名による団結おどりである。なお、女神の選出は、

その日に一番近い誕生日の女子をお願いした。

キャンプファイヤー終了後、最後の夜でもあり、就寝時間は30分延長し、22時とした。

就寝(22:00)

夜の時間は、こども同士各部屋ごとの交歓会をやったり、サイン帖を出し合って、サインをたのんだりしていた。こども達にとって、短い自由時間であるが、楽しく思い出をつくる貴重な時間であったといえる。

4日目

・起床(6:30)

こどもの中でも早くから目を覚ますものが出て、早朝から便所や洗面所、廊下をあるきまわるのがいた。注意するとすぐやめるが、日頃の生活習慣になっている人もいる。そこで人に迷惑をかけないようにするようにと注意した。

・朝のつどい(7:00)

・朝食(8:00)

ご飯・みそ汁・つけもの・のり・卵

・軽スポーツ(9:20~11:00)

一昔の遊びをおぼえよう

- (1) 竹馬つくりと竹馬のり
- (2) 花いちもんめ
- (3) なわとび(大波 小波 さざ波)
- (4) 馬のり
- (5) かわらけり
- (6) かくれんぼ
- (7) かんけり
- (8) 動物リレー

青の遊びを教えようとしたのであるが、こども達の半数近くは知っていた。

まず竹馬づくりは、竹を切り、針金や縄をくりつけて、竹馬をつくった。当初、のこやペンチ、小刀などで、けがをしないかと心配したが、予想外にけがはなく安心した。指導者に道具の使い方を、最初にわかりやすく、実施指導

をさせたのがよかったと思う。

あそびの内容は、男子向き、女子向きがあり、小学生といえども、性差は考えねばならないと思う。事実、花いちもんめなどは、男子がいやがったし、女子は馬のりにちゅうちょしたことからもうなずける。

あそびに夢中になると、けがをしたりするので、ときどき休憩をとった。その間、便所へ行ったり、お茶をのんだり、指導者の話を入れたりした。

・昼食(11:30)

チキンライス

昼食後、あずかっていた、こずかいをかえして、みやげを買う時間をあたえる。

・閉校式

1. はじめのことば
2. 校長先生の別れのことば
3. 阿蘇白雲山荘代表別れのあいさつ
4. 日本交通公社代表別れのあいさつ
5. 指導者全員からひとこと
6. こども代表わかれのことば
7. 別れのうた
(1)七つの子 (2)くつがなる
(3)夕やけこやけ (4)今日の日はさようなら
8. 退場(ほたるの光演奏のなか、指導者がつくったアーチをくぐる)

校長先生の別れのことばは、開校式で約束した3つの目標をどれだけ守れたか、楽しかった思い出をふりかえりながら、別れを惜しむ、そして、残された夏休みを大切にすることを話した。指導者全員がひとことずつ別れのことばを述べる。別れのうたは、こどもと指導者全員が円陣になり、手をつないで静かにうたう。今日の日はさようならをうたいながら、校長先生がこどもひとりひとりと握手、頭をなでながら別

れを惜しむ、このとき大多数の女子と、約半数の男子は涙ぐむ、なかには泣き出す女の子もいた。クライマックスは、ほたるの光の音楽のなかで、指導者のアーチをくぐる。別れのとき、泣き出す子が多かった。とくに、高学年は、感情的にセンチメンタルになりやすいのだろう。

。別れのセレモニーは、しめくくりの行事として、重要な意味づけをもっている。こどもに対する満足感、充実感をもたせてかえすことが、レクリエーション事業の企画としては、最も大切なことである。

。バス見送り

全員でバスのなかのこども達を見送る、また会おうなという気持をこめてである。

ここで健康管理面についてふれておこう。健康管理の立場から、看護婦を1名常時してもらった。看護婦がいるという安心感は、こどもにとって大きかったようである。持病のあるこどもは事前に連絡していただき、家庭からの指示どおりにしてあげた。例えば、ぜんそくの場合の薬の飲ませ方などである。辛い睡眠不足からくる頭痛、かるい切傷程度で、病院のお世話になったこどもはいなかった。

評 価

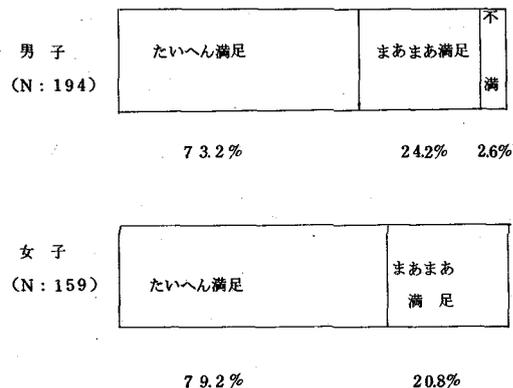
あそこどもジャンボリーのこどもの評価は表2、図1のとおりである。ほとんどが満足という結果であり、企画、運営、指導面からみて成功であったといえる(表2、図1)。

また、こどもの感想文による評価も、事実を正確にとらえていること、運営や指導など、よい点、悪い点をはっきり指摘している。とくに、各班担当指導者との親密度が深くなっていることである。今回の企画がうまくいった要因として指導者とこどもとの結びつきが、強かったことがあげられよう。こどもが日頃接する学校教

表2 性別・学年別・満足度 昭和53年度夏あそこどもジャンボリー

	学 年	たいへん満足	まあまあ満足	不 満
男 子	4 (42)	32人 73.4%	9人 24.5%	1人 2.1%
	5 (58)	41 70.7	15 25.9	2 3.4
	6 (94)	69 76.2	23 21.4	2 2.4
女 子	4 (23)	15 74.5	8 25.5	0 0
	5 (82)	70 85.4	12 14.6	0 0
	6 (54)	41 65.2	13 34.8	0 0

図1 昭和53年度夏あそこどもジャンボリー
性別・満足度



師よりも、若くて活動的、めんどうをよくみる。スキンシップをはかる。つとめていっしょに遊ぶ、など日頃学校で、味合うことのできない指導をしたからであろう。

わずか3泊4日のふれ合いで、純真なこども達が目を輝やかして、喜び楽しむ姿は、レクリエーションとして十分であったといえる。

一方、場所的条件がよかったことも、成功の要因と思われる。雄大な阿蘇、神秘的な火口や墳煙々広々とした高原や草原の景観をバックに思う存分、あそべたことは、思い出をつくるのにふさわしかった。

感想文

6年 古賀善子

私は阿蘇子供ジャンボリーに来てよかったと、第一印象に思った。先生は、おもしろく、やさしく、親しくしてくれて、とてもうれしかったです。5班の友だちともすぐなかよくなり、班長として責任をもたされたり、いろいろなことを学び、いろんな行事もして、毎日が楽しかったです。

二重峠のワイドハイキングは、遠くてきつかった。でも山の上で牛をみたりゲームをしたり、けっこうたのしかった。先生と遊んだり、いたずらしたり、また、先生のくつをかくしたり、何もかもがおもしろく、思い出としてうきだされてきます。きもだめしでみんなが泣いた時、私は、「女はこれだから」と思いました。はじめ、こしひもをなげて「わ〜。」とおどろかすけど私達は「ばかばかしい。」とってしまったこと、とても悪く思いました。水泳大会の時、ぜんぜんふかいところへつれていってくれなかったけど、最後に、井野先生につれていってもらったこと、とてもうれしかったです。キャンプファイヤーで、ほかの人の前で出し物をしたこと、とてもはずかしかったけどいっしょうけんめい声を出しました。

先生といっしょにいろいろなことをしたけど、いちばんうれしかったことと言えば、やっぱり、やさしく、きびしく、親しく、おもしろくしてくれたことです。このかんげき、どうあrawせばよいのか言葉ではとてもあrawすことができません。とてもおもしろかった先生がた、どうもありがとう。来年もあればいいけどね。

6年 桜井靖久

あそどもジャンボリーに参加してぼくは貴重な経験をしたと思う。なぜなら、友達がたく

さんできたからだ。そして、先生がたがあたたかくむかえてくれたことも、その経験というよなものだと思う。ぼくは楽しかった。友だちというものの大切さがわかった。そして、きもだめしの時友達というものがたのものしく見えた。

そして、この4日間を「友情の日」と名づけよう。ぼくは、この日のことをけっしてわすれないようにしようと思う。

このような楽しい日々は、30日の3人ものお金のふんしつで、たちまち暗くなった。しかしずれも本人の不注意ということではあった。

ぼくは、この経験を生かして将来りっぱな社会人となるように努力しようと思います。

5年 山下映子

私は、この阿蘇子どもジャンボリーに来てたいへんよかったと思います。そのわけは、見しらぬ人といっしょにくらし、毎日時間をむだにせずにくらせたからです。ワイドハイキング、キャンプファイヤー、スケッチ大会、たのしいことがあり、時間がたつのをわすれたくらいです。

でも、いやなこともありました。その一つは、きもだめしです。へやで、かいだん話を聞いてなく人もいましたが、私は、こわかったけど、はをくいしばってなきませんでした。でも実際道に行く前は、一番最後だったせいか、ばば先生や、秋吉校長先生からおどかされ、おもわずないてしまいました。私は、一時ばば先生がにくたらしかったけど、ぜんぶ私がこわいことにもたえる人間になるようにだとわかり感謝しています。

スケッチ大会では、あまりつかったことのないクレパスで書いて、自分ではまんぞくのいかない作品でした。でもたくさんの先生方からほ

められて、たいへんうれしく思いました。

このジャンボリーで学んだことを忘れません。

昭和53年冬あそこども

ウィンタージャンボリー

・ねらい

ねらいは夏のこどもジャンボリーと同じであるが、冬休みを利用して、レクリエーション事業を企画、実践したものである。

1. 時期

昭和53年12月24日(日)～27日(水)

2. 対象

小学校4年、5年、6年の男女、一部3年が含まれている。参加者は135名、参加地域は、九州一円にまたがっている。

3. 場所

熊本県阿蘇郡阿蘇町赤水、阿蘇白雲山荘を中心に、阿蘇山中岳火口付近、草千里などである。

4. プログラム(日程)

プログラム(日程)は表3のとおりである。プログラム作成にあたっては、現地地下検分打合せ2回、ほか日本交通公社福岡エースセンター担当者との打合せを数回持つ(表3)。

表3 昭和53年あそこどもウィンタージャンボリー

1.2月24日～27日																
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1 日 目							到着	開校式	親睦のつどい		入浴	夕食	工作(たこつくり)			就寝(おやすみ)
2 日 目	おはよう	朝のつどい	朝食		阿蘇山登山 ・宇宙冒険 ・ハイキング	昼食		くま祭り ・たこあげ大会		入浴	夕食		クリスマス のつどい			就寝(おやすみ)
3 日 目	おはよう	朝のつどい	朝食	アイス スケート		昼食		もちつき大会 ・やきいも		入浴	夕食		屋大会 ゲーム ・怪談ばなし			就寝(おやすみ)
4 日 目	おはよう	朝のつどい	朝食	アイススケート 軽スポーツ		昼食	別れのつどい	さようなら								

5 評価

- 自由記述による感想文
- 指導者(スタッフ)全員討議による評価

6 結果と考察

指導者(指導員、看護婦など)延16名の事前打合せ、オリエンテーションを2回実施、夏

のジャンボリー参加指導者を優先した。というのは、夏に参加したこども達が、冬のジャンボリーで先生達にぜひ会いたい、先生達がくるなら参加したいという希望が強かったからである。

夏の企画と違って、冬の季節的な特徴をいれたプログラムを組んだ。そこでプログラムの内容を指導できるメンバーであることが、指導者の

条件となる。

こどもウインタージャンボリーの目標は、夏と同じく、(1)きびしく、(2)なかよく、(3)たのしく、の3つにきめた。

さて、遊べないこどもが、増えている事実は認めなければならない。昔にくらべて、あばれまわれる山野や河川も少なくなった。勉強や塾、おけいごと、それにテレビ視聴が、こどもの遊びを少なくしたともいえる、とくに、都市や団地に住むこどもは、遊ぶことでも、仕事することでも、勉強することでも、力いっぱいやることができない。すなわち、「きびしさ」にたえることができないのである。

つぎに、一人ではかしくなれない。すばらしい仕事やスポーツもできない。お互いささえあい、せきたくましていく中で、ほんとうの人間の喜びがあることを知らない。そこで「なかよく」は人間的な連帯感をもたせることを強調した。

さて、小学生の親から、よく「勉強もしないで、遊んでばかりいる」という声を聞く。全力を傾注して遊べない子どもが、全力を傾注して勉強できるだろうか。幼児の頃から、心ゆくまで遊べなかった欠乏感が、積極的な学習や、仕事、スポーツへの取り組みを困難にしているのではないかという疑問もなりたつ。よく学び、よく遊ぶが双補的であればこそ、こどもの生活は生き生きとしてくる。今回の企画は、とりもなおさず、よく遊ぶ方法を学ぶことにあるといっってよい。

第1日目

夏のこどもジャンボリーと同様、12時頃阿蘇白雲荘にこども達が到着、班分け、部屋割などすませて、昼食させる。昼食はチキンライスである。

開校式(13:00~13:30)

- (1) はじめのことば
- (2) 校長先生のあいさつ
- (3) 阿蘇白雲山荘歓迎のことば
- (4) 日本交通公社歓迎のことば
- (5) こども代表約束のことば
- (6) 指導者(スタッフ)紹介
- (7) 諸注意
- (8) 日程説明
- (9) おわりのことば

開校式終了後10分程休憩して親睦のつどいをする。

・親睦のつどい(13:40~15:00)

- (1) 歌合戦(うさぎとかめ対浦島太郎)
- (2) ポーキ、ポーキ
- (3) ウルトラマンゲーム
- (4) お弁当箱(手あそび)
- (5) ジャンケンゲーム

(イ)男女対抗 (ロ)班別対抗 (ハ)地域別対抗

(6) うた

(イ)森の熊さん (ロ)雪山讃歌

(7) 団結おどり

今回は135名という多人数のため、夏のジャンボリー(各回100名程度)の場合より、親睦のつどいに力を入れた。とくに、男は男同士、女は女同士、親しくなることが多いので、異性を知り、なかよくなるようなゲームをとり入れた。

また、夏のジャンボリーに参加したこどもも、多数きたので、彼等の興味をひくような種目をとりいれ、あきがこないようにした。

入浴(16:00)

入浴は班別、性別に実施した。なかには恥しいため、海水パンツをはいて入浴しようとしたこどもも数名いたので、当然ながらぬがせた。

・夕食(17:30)

狩場鍋

・たこつくり（19：00～20：30）

各班別に、たこつくりをはじめた。たこは一応材料を用意していたので、比較的早くできた。問題はたこに絵を描くことである。どんな絵を描くのか、阿蘇の大空にあげてめだつものがよい。ということで、先生の顔や、自分の顔、あるいは、花、鳥など、班ごとに知恵を出し合っつつくりあげた。自分たち自身の発想で、品物をつくり出すのはよかったと思う。

・就寝（21：30）

就寝に至るひとときは、こどもにとって、最も楽しい自由時間といえる。禁止してはいるが、まくらなげ、ざぶとんとり、すもう、トランプなどこども同士が、部屋ごとに楽しんでた。

2日目

・起床（6：30）

・朝のついで（7：00）

早朝は寒いので、かけあし、班ごとのゲームなどで、身体をよせあい、からだを暖めあった。

・朝食（8：00）

ごはん・みそ汁・のり・卵

・宇宙冒険ハイキング（9：00）

貸切バスで、阿蘇中岳の阿蘇神社、ロープウェイの登り口まで行く、入口から火口までの約1 Kmは歩いて登れる。雪が30 cm程度深いところでは50 cm位つもっていたので、こども達は大喜びであった。ところが、雪深い急坂の山を登るのは、たいへん苦しいことであった。こども達は道なき道をあえぎながら、そして雪のなかをころびながら火口へと登った。

山上では、指導者2人がシルバグレイの宇宙服を着て待来していた。こども達は、予期しない宇宙人の出現に大喜び。“宇宙人”をついせきして、火口周辺を走らせた。最後は“宇宙人”に雪を投げたり、つかまえてかく闘したりして、やっつけた。

広大な火口付近での冒険ハイキングはあたかも宇宙世界のごとき幻想を、こどもに味合せた。うまく成功した。

最後に、指導者対こども達との雪合戦をやった。谷間から多人数のこども達、その上の岩かげから20名の指導者、距離にして約25 mの雪合戦は、こども達を最高潮に喜ばせ、すばらしい闘志をかきたてた。こども達はかん声をあげ、わきにわいた。

昼食（12：00）

草千里のレストハウスで、弁当を開いたが、空腹のため、全部たべてしまった。普通ならば好き嫌いな食物を残すはずなのに、全員がペロリと食べてしまったのには驚いた。

・くま祭りと、たこあげ大会（13：00～15：00）

くま祭りは、ほんとうのくま1頭を、阿蘇くま牧場から借りた。また、くまのぬいぐるみ1頭を京都の貸衣しょう屋から借りた。アイヌのくま祭の衣しょうも、くま牧場から借りた。事前に練習していた、くま祭りの踊りを、こども達に踊ってみせた。アイヌの酋長が、神への祈りをささげ、「イヨマンテ、ウポポ、ポロランランラル、ウハラハ、カパチェボ、ヌフイニフ、バハイボポ」と、わけのわからぬ勝手なことばをならべると、こども達は、大喜びであった。くまをまんやかに、アイヌの酋長とメノコが、きみょうな声をあげて踊ると、こども達も輪になって踊った。またほんもののくまは、こどもの人気を呼んで、大もてであった。この企画はまったくあたってと思う。

さて、たこあげは、最初困った。雪の草千里は、大雪原とかわって、雄大であったが、風がとまっていた。そのためたこがあがらなかった。せっかくの手づくりたこを、とばすのに苦労した。低い丘の頂に登って風をまった。辛い風が

吹きはじめ、草千里一体に約140個のたこがまいあがった。こども達は、自分でつくったたこをあげるため、草原を走った。雪で、着ていた服や、靴がぬれて困るのを忘れた位である。連だこをあげたこどもが、3人程いたが人気の中心であった。

大自然のなか、しかも雪のなかで、全員であげた、たこ合戦はたしかに成功であったと思う。

阿蘇白雲山荘へは3時半頃に帰りついた。

・入浴(16:00)

入浴後、各班ごとに、クリスマスパーティ第2部楽しいつどいの演しもの練習をした。

・クリスマスのつどい(19:00~20:30)

第1部キャンドルのつどい

- (1) 全員入場
- (2) うた(聖しこの夜)
- (3) キャンドル入場(女神)
- (4) 校長先生のことば
- (5) 分火、誓いのことば(各班代表)
- (6) キャンドルへの祈り
- (7) 詩のろう読
- (8) うた(ジングルベル)

第2部 立食パーティ

立食パーティは、デコレーション大ケーキ8個、フルーツポンチ、すし、ローストチキン、サンドウィッチ、串かつ(その場であげる)、三色にぎり、煮もの、サラダ、ジュース、みかんなど自由に食べれるだけ、食べさせた。ひととおり食べ終わった頃サンタクロースが登場、こども達は大喜び。サンタクロースは、クリスマスのいわれを話し、クリスマスプレゼントをこどもにあげた。

第3部 交換のつどい

別の大広間へ移り、各班の演しものをやってもらった。全部で17班あったので、かなりの時間がかかった。こども達自分で考えたものだ

けあって、こども同士が喜んだ。大人にとって、たいした演しもくでなくても、こども同士では、愉快であったり、しんけんであったり、楽しそうであった。

・就寝(21:30)

よるは、23時まで暖房が入っている。その後阿蘇は冷えこむので、指導者を各部屋に回らせ、健康管理に注意した。

3日目

・起床(6:30)

・朝のつどい(7:00)

・朝食(ご飯・みそ汁・のり・卵)

・アイススケート(9:00~11:00)

アイススケートは、はじめて滑るこどもが約半数、そのため、初心者グループと、経験者グループに分けて指導する。経験者グループは、上級と中級の能力別に分けて、指導した。初心者は7班に分けて初歩から指導した。

初心者は、(1)ころび方の練習、(2)歩く、(3)滑走という手順で、短時間にマスターさせなければならぬ。滑れるようになるためには、きびしく指導した。それでも、こども達はお互い手をつないだり、ひっぱってもらったり、ころんだりして、楽しんでた。

最後に、全員で氷上ゲームとリレー滑走をした。初心者のこどものうち約半数は滑れるようになった。こども達は、屋外リンクでのアイススケートに満足していたようである。

・昼食(12:00)

チキンライス・スープ

・もちつきとやきいも大会(13:30~15:00)

屋外ガーデンに、うす4台を用意した。実際にせいろで餅米をむして、餅をついた。はじめてきねを持ち、餅つきするこどもが大半であった。それだけに、みんな楽しそうであり、また、

しんけんでもあった。班別に、餅をつくことも、まるめることも、あんこを入れることも、きなこにまぶすこともなど、みずから「つくる」ことを満喫していた。つきあげた餅は、その場でほとんど食べてしまった。

焼いもは、丸のまま、たき火のなかに入れて焼くため、多少時間がかかった。こどもは、焼きかげんをみるため、何度も灰のなかから、いもを出して焼くあいをみている。結局、食べる頃には、くろこげになっていたり、泥まみれになったりしたが、おいしそうに食べていた。

餅にしても、焼いもにしても、家庭では、つくって食べるまでの経験が少なくなっている。こどもにとって、初めての経験であった子が多く、それだけ成功したといえる。

・入浴（16：00）

・夕食（17：30）

中華定食

・屋内ゲーム大会（19：00～20：00）

(1) ジャンケン まわれ

(2) ジャンケン 小さくなあれ

(3) ジャンケン またひらき

(4) ジャンケン くすぐり

(5) 西部劇 ジャンケン

(6) ポートこぎ競争

(7) 動物リレー

(8) 輪ゴムわたし

ゲームにはこども達が、なれてしまっている。ので、できるだけ、新鮮に、手早く、あきがこないように指導した。

・怪談ばなし（20：00～20：40）

怪談ばなしは3つのグループに分けた。

(1) 夏にジャンボリーにきたこども

(2) それ以外の男子

(3) " 女子

夏にジャンボリーにきたこどもは、怪談話の

事情を知っている。ので、はじめてきたこども達と分けて実施した。それ以外の男子と女子では、話の内容をかえること、今一つは、多人数では恐怖心をひき出すのに苦労するからである。

怪談とはいうものの、あらかじめ、部屋のなかに、おばけやゆう霊を用意して、話がクライマックスにたった時に出すようにした。ローソク1本のあかりのなかで、こども達をよりそわせ、こわい話をして行く、途中、擬音をつかって一層恐怖感をつのらせる。最後のクライマックスには、恐怖のパニック状態をつくりあげた。

怪談話もみごとに成功した。問題はあまりにもものこわさに、便所へ行けないこども、1人でねむれないこどもなどが、連鎖反応のようにでた。あまりこわくしないと、不満がるこども、少しでもこわいと泣き出すこどもなど、恐怖心には個人差があるのでつかみにくい。それだけに、怪談話はむずかしいと思った。

・就寝（22：00）

4日目

・起床（6：30）

・朝のつどい（7：10）

・朝食（8：00）

ご飯・みそ汁・のり・卵

・アイススケートと軽スポーツ（9：00～11：00）

アイススケートは、前日実施したが、希望者が多いので、当初の予定を変更して、希望者のみを再び実施した。その結果、軽スポーツ希望は30名になった。

軽スポーツは

(1)輪なげ、(2)的あて、(3)バタカ、(4)陣とり、などである。

軽スポーツは、少人数でできたことと、指導者を5名ほどつけたので、こども達は喜んでい

た。

・昼食(11:30)

お子さまランチ

閉校式(13:00~13:30)

1. 開会のことば
2. 校長先生の別れのことば
3. 阿蘇白雲山荘代表別れのあいさつ
4. 日本交通公社代表別れのあいさつ
5. こども代表の別れのことば
6. 指導者の別れのことば
7. 別れのうた

(イ)七つの子 (ロ)くつがなる (ハ)夕やけ
こやけ (ニ)今日の日はさようなら

校長先生は、こども達が当初の目標を守れたかどうか聞いた。そして4日間をふりかえり、こども達の満足感をたしかめた。別れのうたのとき、校長先生は、こども全員と握手、一人一人の頭をなでた。こども達は、「先生どうもありがとうございます」、「来年もお願いします。また来ます」とあいさつした。こどもの顔には、涙がひかるものが多かった。わずか3泊4日のふれあいで、純真なこども達の涙を誘うことができてよかった。ドライといわれる現代っ子のウェットな一面を、かい間みると同時に、人間関係の大切さを改めて痛感した。

評価

こども達の感想文にみられるとおりである。ほとんどのこどもは、よかった、満足した、楽しかった、こわかった、と評価している。

指導者の全員討議のなかでも、企画、運営がよかったというのがみんなの声であった。

反省すべき点は、集合時間がややルーズになったこと、パーティの食事がたべきれなかったこと、男女の交流をもっとはかったら、などの意見に集約された。

感想文

5年 宮嶋晴子

わたしがこのあそウインタージャンボリーで一番心に残ったことは、やっぱり友達のことです。いつでも、どこをみても友達。わたしたちの班はみんなじょうだんがきくたのしい友達ばかりです。けれど初めてきた時わたしと仲よしの友達と班は別れた。このとき、「こういうことになるならこないほうがよかった。」と思ったこともありました。けれど、きたとたん仲よくなり心の中ではほっとした。それから友達との楽しい生活が始まった。みんなでたこをついたり、みんなで部屋を整理したこともありました。ときには先生をからかってこませたこともありました。しかし、楽しいことばかりではなく、苦しいこと、かなしいこともありました。あそ山の雪、それはわたしたちをおもうぞんぶん苦しめているように思えました。足はこぼり、足が動かず、死ぬ思いでした。そしてかいだん話。こわいときは、「先生はわたしたちばかりいじめて……。」と思ったけれど、今思うとなんとなく親しみを感じます。

友達とキャーキャー言ったりゲラゲラわらったり、ときにはシクシクきこえる人もいました。けれどとても楽しく、きびしく、なかよく心に残るあそのこどもジャンボリーでした。

5年 森 晋太郎

ぼくは、三ばく四日のウインタージャンボリーで特に楽しかったのは、あそ山の冒険ハイキングとかいだん話でした。

あそ山の冒険ハイキングの時、たくさん雪がつもっていました。あんなにたくさんつもっていたのを見たのは初めてでした。その上を歩いたのぼりしましたが、苦しくてなきそうでした。でも火口の近くで先生たちと雪合戦をしたのが楽しかった。

草千里でのたこあげで試しに上げた時は、全然上がらなかったが、そのうちだんだん上がるようになった。高く上がるようになってとてもうれしかったけれど、本当にみんなで上げる時になってしっぼがとれて上がらなくなり、残念でした。

かいだん話のとき、おぼけがにせものだったら「八百長！」と言ってやろうと思っていたけれどそれどころじゃありませんこわくてたまりませんでした。校長先生が、黒川の墓地に連れていくといった時はこわかったけれど、終ってから先生が、「今日は中止。」といったので、「やっぱり。」と思ってほっとした。それで、その日はこわくて全然ねむれないと思っていたけれど、三泊のうちで、一番ぐっすりねむれました。

アイススケートなどとにかく思い出に残るウインタージャンボリーでした。

54年度夏あそこどもジャンボリー

1. 時期

昭和54年7月22日(日)から8月12日(日)まで

でを6回に分け、1回3泊4日で実施した。

- 1回目 7月22日(日)～7月25日(水)
- 2回目 7月25日(水)～7月28日(土)
- 3回目 7月28日(土)～7月31日(火)
- 4回目 8月 3日(金)～8月 6日(月)
- 5回目 8月 6日(月)～8月 9日(木)
- 6回目 8月 9日(木)～8月12日(日)

2. 対象

小学校4年、5年、6年の男女、なお、昨年度参加した中学1年女子が5名参加した。また、3年が数名参加した。1回から6回まで合計542名である。参加者の地域別では、福岡、北九州市およびその周辺、鹿児島、長崎(対島)の順に多く、熊本、大分、宮崎(都城)、佐賀、久留米、大牟田などであった。

3. 場所

熊本県阿蘇郡阿蘇町赤水、阿蘇白雲山荘を中心に、阿蘇山中岳、草千里などである。

4. プログラム(日程)

プログラムは表4に示すとおりである。プログラム作成にあたっては、現地下見打合せ2回

表4 昭和54年 夏のジャンボリー

日程表		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
1日目								到着	朝食	開校式	親睦のつどい		入浴	夕食	バンドと共 うたおう。 ゲーム			「おやすみ」	
2日目	「おはよう」	朝のつどい	朝食	阿蘇アドベンチャー 登山				昼食	草千里で軽ス (野外クッキング)	ポーツ		入浴	夕食	グループ秘密活動 きもだめし				「おやすみ」	
3日目	「おはよう」	朝のつどい	朝食	手作りであそ ぼういかに 遊び			野外パーティー (ハイベキュー)	いかに遊び 手づくりであそ ぼう				入浴	夕食	キャンプ ファイヤー				「おやすみ」	
4日目	「おはよう」	朝のつどい	朝食	プールで 遊ぼう (水泳大会)			昼食	別れのつどい											

日本交通公社福岡エースセンター担当者との打合せをした。

今年のプログラム作成に留意したのは、昨年度、人気のあった内容は残さず。怪談ばなし、キャンプファイヤーなどである。また、こどもの要求に合った内容をもりこむ。いかだづくりといかだのり、野外手づくりクッキングなどである。

5. 評価

- (1) 自由記述による感想文
- (2) 質問紙による事前、事後評価
- (3) 指導者全員討議による評価

6. 結果と考察

指導者（指導者、看護婦など）延25名の事前打合せ、オリエンテーションを2回実施、また、7月21日の1回目の前日、指導者を現地に集合させ、準備にあたらせた。

今回のジャンボリーも、目標を3つにおいた、内容は従来のものと同じで、(1)きびしく、(2)なかよく、(3)たのしく、である。

生活パターンは、過去、2回実施したものを変えないで行った。

・1日目

北九州および福岡から貸切バスで到着するのが12時すぎである。ただちに昼食させた。2回以降は、同一日に閉校式と開校式をやるので、時間的に苦勞した。開・閉校式には、指導者全員があたるためである。

食事後、あらかじめ班分けしているのので、名札とジャンボリーのTシャツ（個人名前入り）をくばり、班ごと宿泊部屋へ案内した。

健康状態については、看護婦を中心に、毎日観察し、疾病やケガの報告をさせた。なお、救急用の部屋を1部屋もうけて、看護婦をそこに置いた。

・開校式（13:00～13:30）

- (1) はじめのことば
- (2) 校長先生のあいさつ
- (3) 阿蘇白雲山荘代表歓迎のことば
- (4) 日本交通公社代表歓迎のことば
- (5) こども代表約束のことば
- (6) 指導者の紹介
- (7) 諸注意
- (8) 日程説明

今回は、阿蘇こどもジャンボリー用のそろいのTシャツを、指導者、こども全員が着用した。

・親睦のつどい（13:40～15:00）

1. なかよし、ジャンケンゲーム

- (イ) 校長先生とジャンケンしよう
- (ロ) 勝抜きジャンケン
- (ハ) グーチョキパー
- (ニ) 両手両足ジャンケン
- (ホ) ジャンプ、ジャンケン
- (ヘ) お尻あわせジャンケン

2. せっしやの刀はさび刀

3. すもうゲーム

4. うた（紅白尻とりうた） 5. 団結おどり

なんといってもジャンケンゲームが導入にもってこいである。対人ジャンケンから、集団ジャンケンへ移行、再びスキンシップをとるゲームを実施した。

こども達が、なかよくなるのは早い。とにかく、異性を意識させないで、すばやく導入すれば、盛り上がりも早いのである。

つぎに、全員の名札をとりはずして、お互いの名前を覚えさせる。当初、自分の所属する班員の名前を覚えさせ、ついで別の班員の名前を覚えさせる。名前を覚えさせるのは、親しくなる有力な手段である。

親睦のつどいは、こころとからだのスキンシップが中心になるのである。

・入浴（16:00）

・夕食（17:30）

狩場鍋

ここで自由時間のあそびについてふれておこ

う。少ない自由時間を上手にあそぶように指導する。子ども達は、あらかじめトランプなど、遊び道具を持ってきている。各部屋ごとで、トランプをしたり、ざぶとん取りゲーム、なかには禁止しているのに、まくらなげ、ペランダまわり、ふとんむしなど子ども同士が経験をとおしてあそんでいた。また、指導者へ自由時間は、各部屋をまわって、子ども達とあそぶように指示していた。

考えてみると、あらかじめ決められた、あそびもたのしんだが、短い自由時間で、自由なあそびもまた、子ども達のたのしみの一つであったといえる。

・うたとゲーム (19:00~20:30)

1. うた (歌唱指導)

- (1)森の熊さん、(2)四季の歌
(3)遠き山に火はおちて、(4)燃えろよ燃えろ、(5)今日の日はさようなら、(6)アルプス一万尺

2. ゲーム

- (1)ゴム輸送、(2)肩たたき

3. バンド演奏とともにodorou

- (1)YMCA、(2)ビューティフルネーム
(3)燃えろいい女、(4)ピンクタイフーン
(5)銀河鉄道999

4. おどりユーポイヤイヤイ

5. 団結おどり (エイホーエンヤラー)

6. エール交換 (各班ごとに全員)

阿蘇白雲山荘の広い芝生の庭で、西南大学バンドとともに、あそんだ。バンド演奏は、子どもの知っている流行歌を中心にしたので喜んだ。うす暗い星空のもとで、うたったり、おどったり、ゲームしたりするのは、白昼とちがって意外に導入しやすいし、はにかみやの子どももすっかりとけこんだ。

・就寝 (21:30)

2日目

・起床 (6:30)

・朝のつどい (7:10)

・阿蘇アドベンチャー登山 (7:50~11:00)

当初の計画では、中岳火口へ登山の予定であった。しかし、中岳爆発のため登山規制をされたので、ロープウェイ下の広場までしか行けなくなった。そこで、まず米塚登山にきりかえた。貸切バスで米塚のふもとまで行き、ふもとから米塚へ登った。海拔940mとはいうものの、米塚のふもとからは約150m、時間にして10分程度、急坂できついが、登りやすいので、子ども達は一息で登った。山頂は直径40m位の火口あとがあり、火口周りを散歩しながら楽しんだ。

山頂から全員で、それぞれの、ねがいごとやいいたいことを大声でさげんだ。ある子どもは、「おかあさんー。」といい、別の子どもは「水のみたい」「阿蘇はきれいだー。」「おなかすいたー。」などさまざまな言葉がきかれた。山頂での発声は、気分転換、欲求不満の解消などを求めて、意図的に実施したのである。

米塚登山後、バスで中岳のふもとの、ロープウェイターミナル博物館食堂で朝食をとった。朝食はおにぎり3色3個、おかずは、ちくわ、するめのつくだに、こんにゃく、肉、つけもの、などである。おにぎりのつつみには、竹のかわをつかった。竹のかわのつつみは、昔はつかわれていたが、現在はほとんどつかわれていない。子ども達は、竹のかわをめずらしがって、これはなんでできているのですかと質問した。子どもの質問に応じて、昔のおにぎりのことなどを説明した。

朝の米塚登山で、すっかり空腹になっていたので、おにぎりはほとんど食べた。朝食として

は、めずらしい食欲である。毎日の生活では、朝起きて、ほとんど仕事なしの食習慣がついているため、空腹時のおいしさを満喫したといっ
てよい。

食事後、班別に指導者とともに、アドベンチャーに出かけた。火山灰の降る山道をあちら、こちらまわって、新しい発見をしていた。また、目の前で、雄大な噴煙をみて、阿蘇のすばらしさ、火山の不思議さを感じていたようである。

・野外クッキング(12:30~13:30)

中岳のふもとから、草千里へ移動し、野外クッキングの準備にとりかかった。

草千里は、国定公園内にあるため、当初、野外でのたき火を禁じられた。そこでガスボンベを使用することで許可を得て、野外でカレーレーライスづくりにとりかかった。あらかじめご飯は炊いていた。そこで、カレーづくりをはじめた。そのための用具の準備は、全員で手分けして運んだ。

カレーづくりは、男女別に分け、それぞれ準備した、カレーを混ぜるもの、ご飯をつくるもの、カレーを盛るもの、みんなの協力によって、おいしいカレーができた。

阿蘇五岳の1つ、烏帽子岳をみながら、野外で手づくりのカレーを食べるのは、こども達にとって最高の思い出になったと思う。最後にデザート
の西瓜を食べ食事を終った。

・ワイドスポーツ(13:30~15:00)

- (1)宝さがし、(2)すもう (3)ジャンケンリレー、(4)指導者とのかけっこ、(5)アーチェリー

宝さがしは、やはり人気があった。広い草千里に、番号を書いた紙をかくし、さがさせた。その紙をさがしあてたものを読みあげ、賞品をわたした。1等、女子の先生におんぶしてもらって、みんなのまわりを1周する。2等、先生

のさかだち、3等、先生がくまのまねをしてうたう。などで賞品はキャラメル1個、ガム1個と最小限にした。

こどもが一番喜んだのは、アーチェリーであった。野外に的をつくり、初めて経験するアーチェリーの矢を引かせた。思うようにとぶもの、予想外のところへとぶもの、意外に力があることを知ったようである。

・入浴(16:00)

・夕食(17:30)

中華料理(酢豚、シューマイ、春雨のスープ、西瓜など)

・グループひみつ活動

1. UFO探検

阿蘇山で写されたUFOの写真の説明をする。あらかじめ、それとなく阿蘇山博物館でUFOの写真をみんなにみせておいた。

UFO探検の場所を説明、近くの森へ案内する。指導者がふんする宇宙人を出現させ、トランシーバーの交信によってあたかも宇宙人が話している状況をつくる。これには、カラクリを知らぬこども達は、本当だと信じて驚く。また、UFOからのおくりものとして、花火をうちあげた。

この探検は、ひみつだから、参加したこどもに、明日までだまっておくことを約束させた。UFO探検は、きもだめしをこわがる人が中心になったが、やはり宇宙人の出現が、おもしろかったようで、宇宙人に近よるもの、こわごわさわるものなど、スリル満点であった。

2. 怪談ばなしときもだめし

怪談ばなしときもだめしは、希望者に限った。まず、怪談ばなしは、2班に分け、非常にこわい話、ややこわい話にした。こどもは、恐いものへの興味がつりの、話の途中で泣きだすもの、きもだめしに行くのはいやといいたすもの、平

気ているものなどさまざまであった。

実際、きもだめしの現場に行くのは、そのなかの約半数であった。2人1組で、おぼけの出る場所へ行かせたが、お互いこごわとして、先をゆずり合っていたようである。まわって帰えりついたあとも、恐怖感が残り、就寝の時間まで、おぼけの話をしていたようである。恐い経験のあと、こども達は、なかなか寝つけなかったようである。

・就寝(21:30)

3日目

・起床(6:30)

・朝のつどい(7:00)

・朝食(8:00)

ご飯・みそ汁・のり・卵

・手づくりであそぼう(9:00~11:00)

(1)水鉄砲、(2)竹馬、(3)紙鉄砲、(4)いかだ

自分の手で、実際になにかをつくることは、こども達にとって、興味あることである。野外工作として、ノコ、小刀、ハサミ、カナツチなどを使用させて、手づくりさせた。

いかだは、あらかじめ、板を組み、ドラム管を板の下に置いて、浮力をつけておいた。こども達は、板の上になたてる竹などをつくった。

いかだは、阿蘇白雲山荘のまわりの、堀にかべて、自分達でこがせた。長い竹をあやつりながら、人を乗せたいかだをこぐのは、力の入る仕事であった。こども達は、いっしょうけんめいにこいだ。

水鉄砲、紙鉄砲も、実際に使用した。また、竹馬はつくったものを乗りまわして、楽しそうであった。

・野外パーティ・バーベキュー(12:00~13:00)

広い庭の芝の上で、肉、野菜、とうもろこし、しいたけなどを、4~5人のグループごとに自

ら焼いて食べた。自分達の好きな程度に焼き、それぞれを好きな程度食べた。みんなおなかいっぱいになったといていた。ご飯や、デザート西瓜は、食べきれなかったようである。

・昼寝(13:30~14:30)

昼寝ののちに、各班ごとにキャンプファイヤーの演しもの練習をした。各班とも独自の演しものを考え、練習したのは、チームワークづくり役に役立った。

・入浴(16:00)

・夕食(17:30)

重箱定食 スープつき

・キャンプファイヤー(19:30~21:00)

1. 第1部 火を迎えるつどい

(1) 全員入場

(2) 夜のうた、トーチ入場(女神)

(3) 営火長のことば・阿蘇のはなし

(4) 分火 誓いのことば(各班代表)

(5) 点火 詩のろう読

(6) うた 燃えろよ燃えろ合唱

第2部 たのしいつどい

(1) 全員でのうたやゲーム

(2) 各班の演しもの

(3) インディアンのおどり(指導者)

(4) 団結おどり

第3部

(1) 静かなうた

(2) 営火長のことば

(3) こども代表のことば

(4) 静かなうた 採火

(5) 送火(ほたるのひかり)

(6) 全員退場

こどもの事前調査をみても、キャンプファイヤーに対する人気は高い。また、それだけ期待も大きいので、指導者も全力をあげて指導した。

薪を燃やすので、風向きによっては、火のこがふりかかるため、途中こども達を一部移動させたりした。

・就寝(22:00)

4日目

・起床(6:30)

・朝のつどい(7:00)

・朝食(8:00)

ご飯・みそ汁・きんぴらごぼう・大根おろし・ゆで卵

・水泳大会(9:30~10:30)

1. 準備体操

2. 水遊び

(イ)鯉の滝のぼり、(ロ)騎馬戦、(ハ)ふやし鬼

(ニ)水中逆立ち、(ホ)ねことねずみ

(ヘ)水中鬼ごっこ

3. 自由水泳

4. 班別対抗リレー

高原のプールは、わき水であるため、水温が21度位までになる。とくに、朝の間泳ぐのだから一層冷たく感じる。午後に変更しようと考えたが、午後も水温がほとんど上昇しないので、予定どおりに実施した。

水温が低いため、こどもの口びるや、寒がる状態によって、泳ぎをやめさせ、風呂に入れた。それでも三分の二程度は最後まで泳いだ。

・感想文を書く(11:30)

・昼食(12:00)

親子どんぶり

・閉校式(13:00~13:30)

1.閉会のことば

2.校長先生の別れのことば

3.阿蘇白雲山荘代表わかれのあいさつ

4.日本交通公社代表別れのあいさつ

5.こども代表の別れのことば

6.指導者のわかれのことば

7.別れのうた

(1)七つの子、(2)くつがなる、(3)夕やけこやけ、(4)今日の日はさようなら

8.退場(校長先生がこどもの頭をなでながら1人1人と握手、指導者がつくったアーチをくぐりながら全員退場する。)

ほたるの光の音楽を流す

こども達は別れを惜んで涙をこぼす。なかには声をたてて泣く女の子も多い。3泊4日のフィナーレにふさわしい感激、惜別のひとときである。

・貸切バスなどで帰るこども達を、指導者全員および阿蘇白雲山荘の人たちで送る。

評価

表5によると、あそこどもジャンボリー参加の動機は、男子で父母にすすめられて、30.9% 女子は/友人にさそわれてが44.2%と多い。ついで男子は/友人にさそわれて、26.8%。女子は父母にすすめられて23.6%となっている。新聞テレビやパンフレットなどは、男女とも12~13%で予想外に少ない。その他は、自分からすすんで、学校の先生からすすめられて、などである。友人にさそわれて、お互い参加しようといったのが、断然多いこども同士による口こみが、大きかったといえる。

表6によると、参加の目的は、男子で楽しくあそぶため63.9%、ついで友だちをつくるため57.7%、集団生活に慣れるため43.3%、自然に親しむため42.3%、体力をつけるため32.6%などの順になっている。女子は友だちをつくるため74.0%、楽しく遊ぶため69.8%がめだつて多い。ついで、自然に親しむ53.7%、集団生活に慣れるため45.5%などとなっている。男女とも、楽しくあそび、友だちをつくるために参加したものが多い。

表5 参加の動機 昭和54年度夏あそこどもジャンボリー

	父 母 に す す め ら れ て		新 聞 ・ テ レ ビ や パ ン フ レ ッ ト な ど に よ っ て		友 人 に さ そ わ れ て		そ の 他	
	男 子 (291人)	90	30.9%	40	13.7%	78	26.8%	83
女 子 (242人)	57	23.3%	29	12.0%	107	44.2%	65	26.9%

表6 参加の目的 昭和54年度夏のあそこどもジャンボリー

	く り 友 る だ た ち を つ つ め	る 体 た め 力 を つ け	た 規 め 則 生 正 活 を す しい	む 自 た 然 に 親 し	慣 集 れ る 団 た め 生 活 に	ぶ 楽 た め しく あ そ	そ の 他
	男 子 (291)	168 57.7%	95 32.6%	61 21.0%	123 42.3%	126 43.3%	186 63.9%
女 子 (242)	179 74.0%	68 28.1%	43 17.8%	130 53.7%	110 45.5%	169 69.8%	19 7.9%

表7は、あそこどもジャンボリーで、楽しみにしている活動を事前調査したものである。表7によると、男子では、きもだめし、67.0%、水泳大会58.1%手づくりであそぼう57.0%、軽スポーツ51.2%、ひみつ活動50.5%、キャンプファイヤー47.4%、アドベンチャー登山45.0%、野外クッキング33.0%の順となっている。女子は男子同様、きもだめし66.9%が最も多く、ついでキャンプファイヤー59.9%、水泳大会58.7%、野外クッキング57.9%、手づくりであそぼう、45.9%、軽スポーツ45.0%の順となっている。この結果からも、きもだめしや、水泳大会などを最も楽しみにし

ていることがわかる。

事前調査の結果から、こどもの意向が十分つかめた。そこで、期待度の高いものは一層工夫した。また、期待度の低い種目でもこども達が興味をもつように、研究し配慮した。

表8は終了後、楽しかった活動を調べたものである。表8によると、男子は軽スポーツ67.0%、手づくりで遊ぼう66.3%、キャンプファイヤー56.0%などが期待どおり、またはそれ以上よかったと評価している。女子はキャンプファイヤー71.9%、アドベンチャー登山48.3%、手づくりで遊ぼう60.3%などが期待ど

表7 昭和54年度夏あそこどもジャンボリー
楽しみにしている活動（事前調査）

	男子全体（291人）				女子全体（242人）			
	◎	○	△	×	◎	○	△	×
ひみつ	147	101	31	13	95	73	35	18
活動	50.5%	34.7%	10.7%	4.5%	39.2%	30.2%	14.5%	7.4%
野外	96	89	67	36	140	78	22	9
クッキング	33.0%	30.6%	23.0%	12.4%	57.9%	32.2%	9.1%	3.7%
きも	195	57	22	19	162	38	21	29
だめし	67.0%	19.6%	7.6%	6.5%	66.9%	15.7%	8.7%	12.0%
アドベンチャー	131	101	47	11	76	102	54	18
登山	45.0%	34.7%	16.2%	3.8%	31.4%	42.1%	22.3%	7.4%
手づくりで	166	78	33	12	111	94	35	9
あそぼう	57.0%	26.8%	11.3%	4.1%	45.9%	38.8%	14.5%	3.7%
水泳	169	83	29	9	142	65	31	10
大会	58.1%	28.5%	9.9%	3.0%	58.7%	26.9%	12.8%	4.1%
キャンプ	138	100	37	16	145	69	29	5
ファイヤー	47.4%	34.4%	12.7%	5.5%	59.9%	28.5%	12.0%	2.1%
軽スポーツ	149	95	41	4	109	78	53	13
	51.2%	32.6%	14.1%	1.4%	45.0%	32.2%	21.9%	5.4%
その他	53	1	0	5	21	1	0	0
	18.2%	0.3%	0%	1.7%	8.7%	0.4%	0%	0%

おりになっている。ひみつ活動は、きもだめしと抱き合せに実施したので、実際に参加したものの評価は、極めて高かったといえる。感想文はつぎにあげるとおりである。

4年 大石和香
バスで約7時間半、鹿児島から、ここ熊本県
のあそにやってきました。さいしょわたしがこ
の4日間をすごすことになっている部屋につい

たら、知らないこどもが、いっぱいいるので、
わたしはびっくりしました。部屋をまちがえた
かなと思い、もう一度ドアのところの名簿をみ
ると、ちゃんと自分の名前がかいてあったので
安心しました。

その部屋の8人がなかよしになったのは夜で
す。みんなでマクラなげをしたときでした。そ
れからみんな楽しく生活をはじめました。

二日目の夜のきもだめし大会は、こわいよう

表8昭和54年度夏あそこどもジャンボリー
楽しかった活動（事後調査）

	男子全体（291人）				女子全体（242人）			
	◎	○	△	×	◎	○	△	×
ひみつ 活動	96 33.0%	24 8.2%	41 14.1%	13 4.5%	41 16.9%	25 10.3%	33 13.6%	69 28.5%
野外 クッキング	100 34.4%	76 26.1%	87 29.9%	25 8.6%	93 38.4%	69 28.5%	70 28.9%	17 7.0%
きも だめし	149 51.2%	44 15.1%	25 8.6%	26 8.9%	107 44.2%	34 14.0%	36 14.9%	56 23.1%
アドベンチャー 登山	132 45.4%	74 25.4%	66 22.7%	16 5.5%	117 48.3%	77 31.8%	39 16.1%	17 7.0%
手づくり で遊ぼう	193 66.3%	53 18.2%	21 7.2%	8 2.7%	146 60.3%	66 27.3%	28 11.6%	3 1.2%
水泳 大会	144 49.5%	51 17.5%	50 17.2%	17 5.8%	121 50.0%	55 22.7%	45 18.6%	19 7.9%
キャンプ ファイヤー	163 56.0%	77 26.5%	37 12.7%	10 3.4%	174 71.9%	57 23.6%	14 5.8%	6 2.5%
軽スポーツ	195 67.0%	46 15.8%	33 11.3%	6 2.1%	148 61.2%	50 20.1%	39 16.1%	10 4.1%
その他	41 14.1%	0 0%	3 1.0%	1 0.3%	24 9.9%	2 0.8%	0 0%	0 0%

な楽しいような気持ちでいっぱいでした。先生の話でほとんどの女子がなきました。でも、話と実さいやってみたのと、ずいぶんちがっていて、わたしは、オバケが先生だということが、すぐにわかりました。でも、こわかったなあ〜。

三日目は、水泳大会でした。わたしは、水がつかめたかったので、すぐにあがりました。わたしは水に弱いのかな。その夜は楽しいキャンプファイヤーでした。各はんごとのだし物や歌、みんな楽しいものばかりでした。そして4日目

今日はもう鹿児島に帰るのです。4日間ではやいなあ。ほんとうに楽しい4日間でした。

5年 川畑 譲

ぼくは友達にさそわれてこのジャンボリーに来ました。

行きがけに「友達できるかなあ。」とか話していたけど着いてみるとアツという間に友達ができろるかや部屋で大あばれしました。

一日目の夜はみんなうれしくてまったくねむ

れませんでした。

次の日の朝は早くからトランプで遊んだりしました。そしてこの日の米塚登山はとっても急な坂で登りにくかったけどとっても楽しかったです。草千里で作ったカレーもみんなで協力して作ったのでとってもおいしくて、おなかいっぱい食べました。

中岳のけむりは世界一のカルデラ火山だけあってとてもすごかったです。

夜のきもだめしも、とってもびくびくしてあまり進めませんでした。

三日目には先生とプロレスをしたりしてとてもおもしろかったです。

また来年もきたいと思いますので、今年よりももっと楽しいものにしておいて下さい。

6年 甲 斐 美紀子

ジャンボリーに来た時、不安だった。

私は、人と仲よくするのはにがてだったからです。でも思ったよりも人とせつすることができ、美人の先生達がたくさんいました。

きもだめしは心ぞうがはれつしそうだったけどこわくありませんでした。

校長先生はとてもはりきっていたし、先生たちもみんなはりきっていました。

私はものすごくあばれまわり、まいごになろうとしたし、こわいかいだん話もきいたし、クッキングや軽スポーツをしたり、あたまの中に入りきれないぐらいの思い出ができました。前よりも明るい心になれてジャンボリーに来て本当によかったなあと思いました。

白雲山荘の人たち、先生方、四日間お世話になりました。こられたらまた来ます。きっとそのときもよろしくおねがいします。

ありがとうございました。

さて、満足度を図2表9でみると、

図2 満足度 昭和54年度あそどもジャンボリー

男子 (N291)	たいへん満足 57.0%	まあまあ満足 28.2%	不満 14.8%
女子 (N242)	たいへん満足 67.3%	まあまあ満足 27.3%	不満 5.4%

表9

	学年	たいへん満足	まあまあ満足	不満足
男	4 (107)	58 54.2%	34 31.8%	15 14.4%
	5 (114)	76 66.7%	25 21.9%	13 11.4%
子	6 (70)	32 45.7%	23 32.9%	15 21.4%
	4 (76)	50 65.8%	21 27.6%	5 6.6%
女	5 (85)	65 76.5%	17 20.0%	3 3.5%
	6 (81)	48 59.2%	28 34.6%	5 6.2%

男子でたいへん満足57.0%、まあまあ満足28.2%、合計すると85%が満足といっている。女子はたいへん満足67.3%、まあまあ満足27.3%、合計すると94%が満足といっている。

一方、不満をみると、男子で14.8%、女子で5.4%となっている。男子で不満は、この催しに2度参加した人が多い。その理由として、もっと自由にやりたい、もっと同じことをつこんでやりたい。などが多い。2回、3回と参加することもにとって、同じような内容や方法では不満も増えるだろう。何回参加しても新鮮さを感じ、満足度を高めるプログラムをつくるのが課題となる。

要 約

あそどもジャンボリーを53年夏、冬、54年夏の合計3回実施した。

その結果各回とも参加者の85%は、参加してよかったといっている。すなわち、満足度が極めて高かった。

プログラムの内容は、各回によって異なるが、子どもたちに人気がある種目は、きもだめし、怪談ばなし、ついで、アドベンチャー登山、キャンプファイヤー、軽スポーツ、手づくりで遊ぼう、水泳、野外クッキングなどである。

各回とも指導目標に、きびしく、なかよく、たのしさをあげたが、子どもたちは、よく守った。あそびをたのしくもりあげるためにはやはり守るべきルールが必要である。

以上わずか3泊4日の生活で、純真な子ども達が、目を輝やかせ、喜び合い、楽しむ姿は、レクリエーションとして、十分であったといえる。

一方、場所的条件もよかった。雄大な阿蘇、神秘的な火口や墳煙、広々とした高原や草原の景観をバックに思う存分、あそべたことは、思い出をつくるにふさわしかった。

ところで、深題はいくつか残る。その一つは経費の問題である。昭和53年夏は19000円

昭和53年冬と昭和54年夏は24000円である。運営面を考えると、貸切バス代、ホテル代、指導費、用具代など多額のお金がかかる。とくに、指導面では、指導者を多くして、こどもとのふれあいに重点をおいたので、費用もかかった。このままでは収支の計算が合わない。こどもを中心に利益をぬきで考えている企画、運営であるが、日本交通公社という企業が実施しているのである。せめて、いくらかの利益があるような金額にしなければならない。そのための企画、運営を検討したい。

最後に、この事業には多くの人たちの参加協力によりなり立った。

福岡教育大学運動学秋吉研究室のオールスタッフ、日本交通公社九州営業本部、福岡エースセンター、阿蘇白雲山荘など多くの人たちの採算を忘れた働きがあったことを付記し、深く感謝の意を表したい。